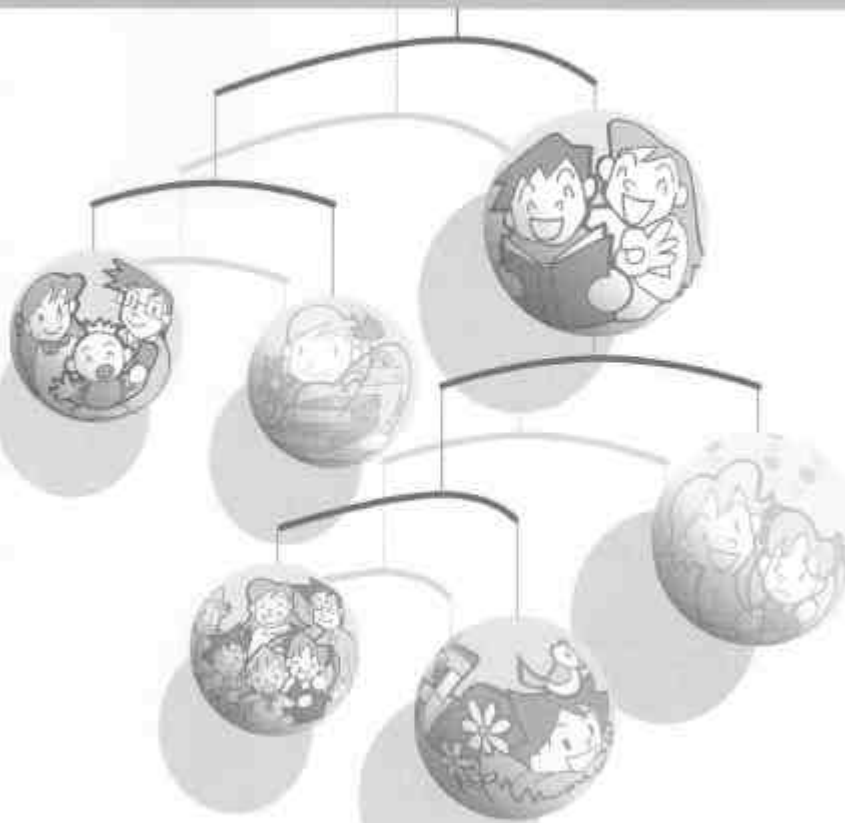


# LDって なんだらう？

学習障害  
理解の手引



全国LD親の会

National Parents' Association of Learning Disabilities in Japan

## 目次

はじめに	1
第1章 LDってなんだらう	2
1. LDってどんな子ども？	
2. LDは個性？それとも障害？	
3. なぜLDになるの？	
4. LDは治るの？	
5. LDは知的障害や自閉症とはどこがちがうの？	
6. LDにはどんなタイプがあるの？	
7. わが国におけるLDへの取り組みについて	
第2章 家庭での取り組み	10
1. 親としての考え方や配慮の仕方	
2. 幼児期の取組み	
3. 児童期の取組み	
4. 思春期の取組み	
第3章 学校での対応	18
1. LD児への教育的対応	
2. 指導上の配慮事項	
3. 指導の基本と実際	
4. 保護者と学校・教師との協力について	
資料編 LDかなと思ったら	26
1. LD親の会とは？	26
2. 全国各地の親の会と連絡先	27
3. 各地の診断・相談・療育機関	30
4. 各地の特殊教育センター	36
5. 参考図書	38
6. LD関係の主なウェブサイト	40

## はじめに

学習面で独特のつまづきを持つ学習障害（LD）の子ども達。また、落ち着きがなかったり、集団行動が苦手だったり、動作がぎこちなかったりという特性を併せ持つことがあります。

こうした子ども達は、困難の度合いが軽度で見えにくいこともあり、「なぜ、できないの」親も随分とまどい、悩んだりします。一方で、子ども自身もとまどい苦しんでおり、家庭・学校・地域等での周囲の理解や適切な対応・援助を待っているのです。

LDの子ども達は、苦手な部分やアンバランスな面を持っていますが、個々の特性に合わせた配慮や適切な対応により、ある程度克服したり、他の能力でカバーすることができます。しかし対応が不適切な場合、徐々に自信をなくしたり情緒面や行動面で二次的な問題を引き起こしてしまうケースが残念ながらあるのです。

LDについては教育分野での対応が本格化しつつあり、診断・相談機関等も増え、書籍や情報も多く見られるようになってきています。一方、各地のLD親の会には「うちの子はLD?」「LDについて知りたい」といった問い合わせが数多く寄せられています。

この小冊子は、より多くの保護者や教育関係者の方にLDについての基本的な知識を理解していただくことを目的として企画し、社会福祉・医療事業団（子育て支援基金）の助成金を受けて作成したものです。

執筆については、日本LD学会やLD教育の第一線で活躍されている3名の先生にお願いをしました。資料編には各地の親の会から収集した情報を掲載しました。

最後に、この小冊子がLDの子ども達の健やかな成長の一助となることを願っています。

## 第1章 LDってなんだろう

### 1. LDってどんな子ども？

LD（学習障害）と呼ばれる子どもたちによく見られる状態を親の目から見てみましょう。

はっきり知能が遅れているとか、なにか障害があるとは思えない、でもなんでもないかという、なにか、どこか、その育ちかたや勉強面、行動面で気になるところがあるというのが共通した印象でしょう。

LDにはさまざまなタイプがあります。ですからLDがみんな同じ特徴を示すわけではありません。よく報告されるのは次のような特徴です。

【ことばや勉強に関する特徴】

- ことばの発達が遅れ気味で気になった
- ことばの使い方や文字の習得に遅れやつまづきが見られる（自分勝手なおしゃべりやまとまらない話し方が多かったり、話すことに比べやさしい読み書きにつまづきがある）
- 聴いたり、見たり、さわったりといったことに、こだわりや敏感さがある。（大きな音や特定の音を怖がる、同じものを飽きずに見たがる、触られることや特定の衣類の感触をいやがる）
- 理解にムラがある（やさしい指示がわからなかったり、興味を持っているとかなりよくわかるのに、集団の中では理解しにくい）
- 変な字を書いたり、いつまでも幼い絵を描いたり、図などの理解が弱い（左右逆の字を書いたり、漢字の誤りや覚えが悪かったり、絵や図を苦手とする）
- 記憶はいいのに、すじ道を立てて考えることが不得意（九九や計算はできるのに、文章題になるとよく間違える）

### 【行動に関する特徴】

- 手先の不器用さや運動が苦手
- 場所や位置をまちがえる（道順、机やロッカーの位置など）
- 落ち着きがなくじっとしていることができない
- 自分勝手な行動が多く、なかまからはずれがち
- 集中力にムラがある（好きなことには集中できるのに、気が散りやすい）

一口にいうと、できることとできないこと、できるときとできないときの差が目立つといえるかもしれません。

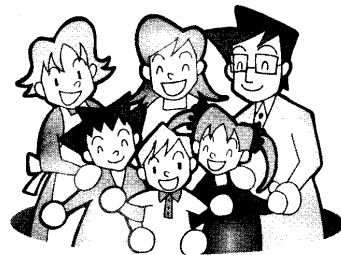
こんな特徴が目立ったら、LDかもしれないとていねいにその子どもの発達を見ていくことが大切です。育てるなかで配慮すれば子どもにも親にも役立つことがたくさんあります。

親の不安や心配のし過ぎは、かえって子どもによいところの負担をかけることがあります。

まず、子どもの様子をよくみて、親が家庭でできそうなことをやってみる。そしてゆっくりと、まわりで相談できる専門家を見つけていけばよいのです。

親とその家族が理解をして、長い目でその子の成長を見守り支援する。これが基本です。

この冊子にはそうしたヒントがいっぱい書かれています。



## 2. LDは個性？ それとも障害？

よくLDは個性が強いだけで、障害あつかいするのはおかしいのではないかという声を聞きます。

たしかに、できることとできないことがあったり、できかたにムラが多かったり、できるのに時間がかかるだけといったこともあります。そうした特徴は障害と呼ぶ程のことではないと感じるかもしれません。

だれにでも得意、不得意はあるし、苦手なことがないひとはいません。それこそが個性というものではないかというわけです。見方を変えると、LDが示すさまざまな特徴を個性という言葉で済ませられるなら、わざわざLDという必要はないのかもしれない。

LDのこうした状態は、親も含めてなかなかわかりにくく、気づきにくいというのが実際のところなのです。そのために子どもたちは知らず知らずに、的はずれな叱責や、無理な努力を強いられることが多いのです。そのためにたくさんの不利なことが子どもに背負わされていきます。その結果、親が周囲から責められるといったこともよくあります。

LDは親のしつけ方や本人の努力不足ではないのです。

なぜLDを障害と呼ぶかといえば、その障害は理解と支援を必要とする個性だからなのです。障害と呼んで差別するのではありません。LDという言葉によって、その子どもたちをきちんと理解し、その子どもにあった支援を行うことができます。

LDとの正しいつき合い方を、LDという言葉を使うことで、私たちは初めて理解するともいえます。

### 3. なぜLDになるの？

くわしい原因はわかってはいません。ただ女の子よりも男の子のほう何倍も多いということから、きっとその背景には生物学的な発達の原因があるのではないかとわれています。

一般に、女の子よりも男の子のほうが生まれてくるときに発達障害をもちやすかったり、育ちにくいといったことがあるようです。

原因はよくわかっていませんが、親の小さいときにも似た状態があったということから、子どもにいつそう際だった特徴として引き継がれるといった場合もあります。これは家族集積性と呼ばれます。

また出産時のさまざまなトラブル（たとえば仮死、低出生体重など）が、その後の子どもの発達に何らかの影響を与えたのかもしれませんが、いずれにしても、そうした影響がことばや行動面の発達のな特徴として、幼児期からみられやすいということがあります。

### 4. LDは治るの？

LDの原因ははっきりしていませんが、その背景にはなんらかの発達の要因が考えられるわけで、それはひとつの発達の特徴としてその子どもにそなわっているともいえます。

LDの子どもが示すさまざまな特徴やつづきは、適切な対応や指導によって改善はされていきますが、個性そのものを消し去ることはできないように、やはりその子どもの特性として残りやすいと思います。一般的な個性として受けとめられる範囲にまでうまく発達するよう、私たちは支援するのです。

### 5. LDは知的障害や自閉症とはどこがちがうの？

「うちの子どもはLDなのですか、知的障害なのですか」

「自閉症といわれたことがあるのですが、LDなのですか」

こうした質問を発達相談ではよく受けます。LDが発達の障害のひとつだとして、知的障害や自閉症とはどこがちがうのでしょうか。それでは「知識の整理ダンス」という考え方で説明しましょう。

わたしたちの頭の中には、ものごとを理解したり、判断したり、考えたり、記憶したりする、いわば情報に関する「知識の整理ダンス」があると考えてみてください。

大ぶりのダンスのひとつもあれば、やや小型のひとつもいるでしょう。引き出しがたくさんあるひとつも、少な目のひとつもあります。

知的障害は、さまざまな原因によってダンス全体で、引き出しのあちこちが開けにくくなっている状態をいいます。ですからダンス全体の使い勝手（知的な働き）が十分ではないということを、まず理解しなくてはならないのです。

